

電子図書サービスの導入について

1 電子図書サービス

電子データ化した書籍を、インターネットにつないだパソコンやスマートフォン等で閲覧できるサービス。

(1) 導入のメリット

- ・図書館外から24時間365日、インターネットを通じて電子図書の利用が可能。
- ・テキスト読み上げや文字拡大機能がある。
- ・貸出、返却、督促業務が不要（期限が来ると自動返却される）。
- ・蔵書スペースが不要。

(2) 導入の課題

- ・紙の図書よりも高額。（平均3,400円）
- ・使用期限、回数制限のある電子図書が多い。
- ・図書館システムの改修費用が必要。
- ・利用対象が制限される。（市内在住・在勤・在学等）

(3) 導入の見通し

- ・令和4年度のシステム更新にあわせての導入を検討中。

2 電子図書サービスの導入状況

(1) 全国の導入自治体

調査年月日	導入自治体数
2020年10月1日	114自治体
2021年 1月1日	143自治体
2021年 4月1日	205自治体

(2) 埼玉県内の導入自治体 14自治体

- ・2015年 桶川市
- ・2016年 さいたま市 宮代町
- ・2017年 熊谷市 春日部市
- ・2018年 三郷市
- ・2020年 久喜市 草加市 神川町 鶴ヶ島市
- ・2021年 坂戸市 戸田市 寄居町 川越市